

特別支援学級における働く意欲を高める作業学習の一試み ～販売活動・仲間と楽しさを共有する活動を通して～

仙台市立六郷中学校
講師 白木澤 そのみ

1 主題設定の理由

本校の特別支援学級は平成24年度、平成25年度共に3学級で構成されており、生徒は平成24年度6名、平成25年度5名の在籍である。生徒の実態は様々で授業の全てを特別支援学級で過ごす生徒、実技教科や特定の教科を協力学級で過ごす生徒がいる。どの生徒も口頭での指示が通じ、教員が指示することに対して行動に移すことができる。中学校卒業後はほとんどの生徒が支援学校高等部への進学を希望している。高等部へ送り出す中学校の教員としては高等部卒業後の将来も見据え、高等部で何を学びたいのかなどしっかりと目的意識を持って高等部へ進学してほしいと考える。

また、「企業で言われている5S活動(整理・整頓・清潔・清掃・躰)も基本は学校や家庭で育むことが出来るのではないだろうか。これらは早期からスモールステップで取り組むことが大切である。」(新堀2012)と述べていることや中学校3年間を通して生徒の働く力を育てるために「作業学習を中心とした働く学習を教育課程の中心に据え、働く楽しさや、働いた達成感、成就感が持てるように教育課程を工夫する。(中略)働いたことへの評価をきちんと行い、働くことの習慣化を図るとともに、働くことが好きな生徒を育てる。」(木内2012)と述べているように中学校の段階であっても高等部卒業後の将来を見据え、社会参加のために身に付けさせるべきことがあると考える。さらに、文部科学省「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引き」(平成18年11月)には、中学校のキャリア発達段階は「現実的探索」と「暫定的選択の時期」であり、その内容として、「肯定的自己理解と自己有用感の獲得、興味・関心等に基づく勤労観、職業観の形成、進路計画の立案と暫定的選択、生き方や進路に関する現実的探索」と示されている。ただし、特別支援学級に在籍する生徒の発達段階を踏まえれば、小学校のキャリア発達段階にも目を向けるべきであろう。小学校のキャリア発達段階は「進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期」であり、その内容は、「自己及び他者への積極的関心の形成・発展、身の回りの仕事や環境への関心・意欲の向上、夢や希望、憧れる自己イメージの獲得、勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成」と示されている。

本校では中学校に入学した当初は自分の夢や、中学校卒業後どうするかなどの質問に対して自信を持って答えることができず「働く」ことのイメージがつかめていない生徒の様子が見られた。そこで、まずは早急に小学校のキャリア発達段階を身に付け、その上で高等部進学を見据えた働く意欲を高めることが大切であると考え。そのために勤労、販売、収入、そして購入という社会の仕組みを理解させると共に、仲間と共に楽しさを共有することを通してより働くことへの意欲を高めると考え本主題を設定した。

2 実践の目標

- ・働くことの意味や働くためのルールを理解し、仲間と共に成就感や達成感を味わうことで働く意欲を高める。
- ・農作物の栽培や物作りの作業学習において、実際に販売する製品を作製することで、より本格的な作業活動を行う。

3 方法

(1)実施概要

【作業学習の週当たりの時数】 週 5 / 30時間

【対象生徒】平成24年度～平成25年度にかけて特別支援学級に在籍した生徒4名

【実施計画と主な生徒の作業内容】

平成24年度及び平成25年度の作業学習計画を表1に、販売の収入を用いて行う活動の予定を以下の表2に示した。表1の作業学習で作製した製品や作物を販売し、その収入で生徒たちが楽しめる活動(表2)を行った。

表1 <平成24年度及び25年度の作業計画>

期間	活動内容	生徒の作業内容
平成24年 5月 6月	・畑作業(10月まで継続) ※職員室での販売 ・牛乳パックを用いた コースター作り	・畑作業…土作り, 苗植え, 水やり, 追肥, 草むしり, 販売 ・コースター作り…牛乳パックの回収, 牛乳パックの分解 加工面除去, 模様作り, 色つけ用のリサイクル画用紙の選 別, 牛乳パック・色付き用紙の裁断, ラッピング
平成24年 7月	カフェを開こう①	全員,基本的な接客(身だしなみ)についての学習を行うが, 当日はキッチン係, ホール係に役割を分担して行う。
8月	カフェを開こう②	
9月 10月	・スイーツデコマグネット の作製	粘土の色の調整, 型抜き, やすりがけ, 模様付け, ニス塗 り
11月	六郷市民センターでの販売	接客, 販売
平成25年 5月 6月 7月	・畑作業(10月まで継続) ・スイーツデコマグネット の作製 ・木製のクリップを用いた 製品作り	※畑作業, スイーツデコマグネットについては前年度同 様。 クリップ…やすりがけ, ニス塗り, パーツの貼り付け作業, ラッピング
8月	カフェを開こう	※前年度同様
9月 10月 11月	・スイーツデコマグネット の作製 ・木製のクリップを用いた 製品作り	※夏休み前同様
11月	六郷市民センターでの販売	接客, 販売

表2 <平成24年度及び25年度の販売で得た収入を用いて行う活動計画>

実施予定日時	活動内容	実施予定日時	活動内容
平成24年 7月23日	流しそうめん	平成25年 8月30日	流しそうめん
平成24年 8月24日	スイカ割り	平成25年 9月11日	スイカ割り
平成24年 10月17日	やきいも	平成25年 11月(実施日未定)	やきいも
平成24年 12月21日	クリスマス会	平成25年 11月(実施日未定)	バーベキュー
平成25年 1月22日	餅つき	平成25年 12月20日	クリスマス会
平成25年 3月7日	3年生を送る会	平成26年 1月(実施日未定)	餅つき
		平成26年 3月6日	3年生を送る会

(2)生徒の様子の記録方法及び分析方法

日々の生徒の様子や発言を適宜筆記及びデータに記録した。また、毎日の学校での生徒の様子を保護者に伝え、家庭での生徒の様子を把握するために使用している連絡帳にも記載するようにした。作業学習での生徒の様子の変容を表5に、売り上げを用いて行った活動での生徒の様子を表6に示した。作業学習での生徒の変容と、販売の収入を用いて行った生徒が楽しめる活動での生徒の変容を、比較し検討する。

4 結果

平成24年度～平成25年度9月現在までの作業学習の実施内容を表3、販売での収入を用いて行った活動を表4にまとめた。

表3 <平成24年度及び平成25年度9月現在までの作業学習実施内容>

期間	実施内容	
平成24年 4月 5月 6月	<ul style="list-style-type: none"> 畑作業 (10月まで実施) 牛乳パックを用いたコースター作り 	<ul style="list-style-type: none"> 畑作業…夏野菜を中心に栽培を行った。ラディッシュ、ダイコン、ピーマン、トマト、シントウ、オクラ、サツマイモ、ナスを植えた。収穫した野菜の一部は職員室で販売した。 コースター作り…牛乳パックを用いた紙すきでコースターを作製した。実施した時間に応じて役割分担を交代し全員が一通りの役割を経験した。できあがった製品は、7月と8月に行ったカフェで販売したり、職員室の先生方に配布したりした。また、職員室にお客さんが来校された際に使用するなど、多くの人に周知できるようにした。
7月	カフェを開こう①	授業参観の日に実施した。飲み物と簡単なデザートを学級の保護者や本校の職員に提供した。キッチン係、ホール係に分かれて実施。身に付けるエプロンは自分たちでミシンを使用し作製した。
8月 夏休み	カフェを開こう②	夏休み中に本校の職員向けに昼食の提供を行った。事前に生徒が注文を取り、カレーライス、ピザトースト、ピラフ、デザート、飲み物を提供。畑で採れた野菜も食材として使用した。また、震災の影響で同じ校舎で過ごしている東六郷小学校の教職員の方々にもご協力いただき、参加していただいた。
9月 11月	スイーツデコ マグネットの作製	11月に地域で行われる「六郷復興の集い」に出店すること、クリスマスプレゼントとしてお世話になった人に配布することを目標として製品を作製した。一通りの作業を全員が経験した後、生徒の長所を生かせるよう、基本として役割を固定した。
11月	「六郷復興の集い」 出店	地域の市民センター祭りで、作業学習で作製したスイーツデコマグネットを販売した。金銭授受なども生徒が行った。また、前日の事前準備(テント設営など)にも参加し地域の方と交流した。初めての校外での販売となった。
平成25年 5月 6月 7月	<ul style="list-style-type: none"> 畑作業 (10月まで継続) スイーツデコ マグネットの作製 木製のクリップを用いた製品作り 	<ul style="list-style-type: none"> 畑作業…キュウリ、ゴーヤ、バジル、トマト、サヤインゲン、ナス、ピーマン、トウガラシ、ダイコン、ジャガイモ、サツマイモを植えて栽培した。収穫した野菜は前年度同様一部を職員室で販売した。収穫したその日のうちに値段を生徒が決め、袋詰めも行い、販売した。 スイーツデコマグネット・クリップ…前年度同様11月に地域で行われる「六郷復興の集い」に出店すること、クリスマスプレゼントとしてお世話になった人に配布することを目標として製品を作製した。マグネットは、昨年度よりも製品のバリエーションを増やしたり、製品の精度を高めたりした。クリップはスイーツデコマグネットの作業を応用した。細かい作業以外の役割は時間に応じて全ての作業工程を全員が経験した。

8月	カフェを開こう	前年度同様、夏休み中に本校の教職員、東六郷小学校の教職員の方々向けに昼食の提供を行った。事前に生徒が注文を取り、カレーライス、ピラフ、マーボーナス、飲み物を提供。畑で取れた野菜も食材として使用した。生徒会の行事で来校されていた長町中学校の先生方とPTAの方々にも試食していただいた。
9月	・スイーツデコ マグネットの作製 ・木製のクリップを用いた製品作り	※5月・6月・7月同様

表4<平成24年度及び平成25年度9月現在までの販売での収入を用いて行った活動>

実施日時	実施内容	
平成24年 7月23日	流しそうめん	特別支援学級支援指導員の先生のお別れ会の一部として夏休みに入ってから行った。地域にあるお寺から竹をいただいて自分たちでみや木槌を使って節を取ったり、やすりがけをしたりした。当日は職員室の先生や、東六郷小学校の先生にも流しそうめんを体験していただいた。
平成24年 8月24日	スイカ割り	「カフェをみんなで頑張ったね」とスイカ割りを実施。流しそうめんは特別支援学級支援指導員の先生のお別れ会もかねていたのでこのスイカ割りが初めての打ち上げのような活動となった。教員も入りジャンケンで順番を決め、全員が目隠しをしてスイカを割りをした。
平成24年 10月17日	やきいも大会	畑で育てたサツマイモやジャガイモを収穫して行った。一人一人に道具を渡し、着火させるところからはじめた。
平成24年 12月20日	クリスマス会	11月から会の内容など、生徒の出し物やメニュー決め準備を行った。普段お世話になっている先生方を招待し、手作りの昼食を食べていただいたり、出し物を楽しんでいただいたりした。また、東六郷小学校の特別支援学級や先生方にも招待状を配布し、時間が合う限り参加していただくことができた。
平成25年 1月22日	餅つき	3年生の入試が終わるのを待って実施。臼や杵は地域の方からお借りすることができた。家庭科の先生にご協力いただき、仙台雑煮と関西風の雑煮を作り食べ比べを行い、文化の違いにも触れた。時間割の都合で参加いただけなかった先生方にも食べていただけるようにきなこを用意して後で食べられるようにした。生徒全員が杵を持ち餅をつき、餅をちぎる作業やきなこにまぶすことも体験した。
平成25年 3月7日	3年生を送る会	1・2年生が企画して3年生に感謝の気持ちを表した。メッセージカードを先生方にも依頼し、書いていただいたものをプレゼントとして作製した。会ではゲームや出し物、1・2年生からの言葉、3年生からの一言、思い出の記録DVD上映など自分たちで会の内容を決定し、行った。
平成25年 8月30日	スイカ割り	東六郷小学校の特別支援学級も誘っての実施。昨年同様カフェの打ち上げのような位置づけで実施した。
平成25年 9月11日	流しそうめん	今年度は東六郷小学校と六郷小学校の特別支援学級を招待し、交流を深めながらの実施となった。昨年度同様に竹を加工することから準備を始めた。当日は竹を設置する班と食材を準備する班に分かれて準備を行い、早目に準備をすることができた。小学生が来校する前に生徒が流しそうめんを楽しみ、その後生徒がそうめんを流し、先輩として小学生のお世話をすることができた。

表5 <作業学習における生徒の様子や発言について> ※意欲に関する見取りにアンダーラインを引いた

平成24年4月～9月 畑作業

4月、畑を拡大するためスコップで土を混ぜたり、水をジョーロでまいたりするが長続きしない。教員も一緒に行くが、いつの間にか何も言わずに休憩している。一人が休憩するとつられて周囲の生徒も休憩に。「はあー」とため息が聞こえることもあった。声を掛けてもなかなか作業を行うことができない場面もあった。草むしりや耕す作業など、同じ作業を繰り返すことは苦手であったが、苗植えや種まきなどの新しい作業には進んで取り組むことができた。

6月には少しずつ収穫ができるようになってきた。そのため収穫したその日のうちに職員室での販売に挑戦。初めは緊張で戸惑っていた。先生の机の近くまで行き、「〇〇円です」という生徒もおり、戸惑う度に教員に目で助けを求めることも。回数を重ねる度に慣れてきた様子で言葉も「いかがですか」「ありがとうございます」などの言葉を言うことができるようになってきた。一度に収穫できる量が少ないため毎回完売。先生方からは「すごいね」「立派な野菜だね」「もったいないの？」など声をかけていただいた。販売以外の畑作業でも作業に取り組める時間が増えてきた。この時期の畑作業は草むしりと水やり、追肥が主で、4月には集中できない作業であったが、草があると野菜が大きくおいしく育たないことを伝えると止まっていた手が動き出すこともあった。

7月には、ダイコンの収穫ができた。今まではひとつひとつが小さな種類の野菜の収穫だけであったが男子生徒が思いっきり引っ張らないと抜けないほどの野菜の収穫となり、今までにない大きな野菜の収穫で自分が抜いたダイコンを見てうれしそうにしていた。この頃からチャイムが鳴る前に畑に向かったり、授業終了後に汚れた軍手を自分たちで洗って洗濯したりするなどの様子が見られた。これまで教員が行っていた一部の片付けなども「干していいですか？」や「どこに持って行けばいいですか？」など、生徒自ら行おうとするようになってきた。



<写真①>エコーピアフレンド畑

平成24年4月～6月 物作り（コースター作り）※平成23年度も実施

4月、5月は年度初めの作業学習なので、作業学習で何を学ぶのかということや将来社会に出ること、報告の仕方などをひとつひとつ確認しながら取り組んだ。報告や言葉遣いでは言葉自体が出てこないこともあった。一度すべての工程を全員が経験した後、役割を分担して行った。意欲を高めようとそれぞれの希望する役割に割り振るが、途中で集中力が途切れてしまう場面が多々見られた。その都度、なぜ頑張っているのかを話すがなかなか、前向きにはなれない様子であった。

6月には完成品が増え、コースターを自分の家に持ち帰ったり職員室で配布したりすることができるようになった。相手に渡す時の言葉などはなかなか自分たちから言い出すことができなかったため、配布する前に教室で何度も話し方、渡し方の練習を行ってから配布するようにした。質問されたことにはなかなか答えられず、無言になることもあった。4月当初に比べ、作業に集中できる時間は少し長くなってきたがまだ「仕事」という意識はない様子であった。



<写真②>牛乳パックを使用したコースター

平成24年7月 カフェを開こう①

語彙が不足していたり、相手とのやりとりが苦手だったりする生徒が多いので、接客の際に使用する言葉を知り、練習することから始めた。畑作業などを通して少しずつ前向きに作業学習にも取り組めるようになってきた。また、店員としての身だしなみなど普段の生活なども結び付け、学習に取り組んだ。少しずつではあったが作業学習で学習したことが他の場面でも生かすことができてきた。

言葉が身に付いてきたところで実際にグラスやカップおしぼりなどを用いて飲み物を出す練習を行った。はじめはとても緊張している様子で、なかなか思うように行かないことにイライラする様子もあった。回数を重ねて行くたびに「あっ、そうだった」と自ら間違いに気づくことができるようになった。また、練習の際も生徒同士で行い、ごっこ遊びのように楽しみながら取り組むことができるようになった。

当日は緊張している様子ではあったが「お店」を開けるということを楽しんでいるようであった。接客としてはまだまだ足りないところはあったが、先生方や特別支援学級の保護者の方に助けられながら自分たちの仕事をこなすことができたり、たくさんの方に「すごい」「立派だね」などの賞賛の声をかけていただいたりすることで、照れくさそうにしながらも生徒全員の自然な笑顔が見られた。

平成24年8月20日（月） カフェを開こう②

夏休み中に準備日を設けて先生方に事前に注文を取りに行ったり、会場準備を行ったりした。夏休みではあったがほぼ全員が毎回準備に参加した。7月に行ったカフェで自信がついたようで、質問されると固まってしまうこともあったが、スムーズに注文を伺いに行けるようになってきた。また、生徒から「分からないので教えてください」と自発的に言うことができた。

当日は教員が近くにいなくても自分たちで料理を運び、一通りの接客をすることができた。ただ、自分たちが食事をしている間に「お客さん」がいらっしゃった際、「今食べているんです」と答えるなど相手を優先させることはあと一步というところであった。



<写真③>カフェの注文の集計作業

平成24年9月～10月 物作り（スイーツデコマグネット）

細かい作業が多いことと、自信を持たせるために役割を固定した。4月に比べ作業にも集中して取り組める時間が増えてきたため、最終的に作り上げる目標の個数も設定した。販売することや人の手に渡ることなどを意識できるように声掛けを行った。「今日は〇個できたから、後〇個だ」「今日頑張ったー」などの発言があり、自分たちが協力して作った製品に対して「本物みたい」「おいしそう」「間違っって食べちゃわないかな」など前向きに取り組む、達成感を得られている様子であった。



<写真④>平成24年度スイーツデコマグネット

平成24年11月「六郷復興の集い」出店

初めての学校外での販売となり緊張しているようであった。売り始めは生徒たちの予想を上回る多くのお客さんに来ていただき、慌てながらもうれしそうにしていた。事前指導では、普段の販売と違い学校外での販売となるため、なかなか完売にはならないことは伝えていたが、開店1時間経過後からなかなか完売できないことに苛立つ生徒もいた。後半は売り場で販売をする生徒とカゴに製品を入れて売り歩く生徒のふたつのグループに分かれて販売を実施したため完売することができた。「やっぱり学校とは違うなあ」と販売することの難しさを実感したようであった。

平成25年4月～9月 畑作業

「早く大きくならないかな」「いくらぐらいで売れますか?」「おいしいのできるかな」「虫に食べられている大変だ」と作業中に収穫を楽しみにしていると考えられる発言が多くなった。それぞれの作物の担当を割り当てたことで、生徒それぞれが担当の作物の責任者となり自発的に追肥を行ったり、支柱を立てようとしたりする様子が見られた。草取りも生徒全員が最後まで飽きずに行っていた。また、平成24年度に畑作業を経験している2、3年生が1年生にアドバイスをする場面が多くあった。

職員室内での販売では、生徒自らが先生の近くに行き「いかがですか」と声を掛けていた。また、「この間のダイコンおいしかったよ」「立派に育ったね」などの言葉をいただきうれしそうに「ありがとうございます」と言葉を返す姿も見られるようになった。いただいたお金を教室で計算し、現在の「利益」として計算した後、「これじゃあまだ炭しか買えないね」と自分たちで掲げた「やりたいこと」を達成させようと意識している様子だった。



<写真⑤>畑で収穫したダイコン

平成25年6月～7月 物作り（スイーツデコマグネット・木製クリップ）※平成24年度も実施

今年度は生徒自身がカタログを見て昨年度作製したものを中心に作りたいものを選んだ。「昨年度よりもレベルアップしたい」という希望があり、様々な新しい材料を用いて作成した。教員が見本として作ったものを「やってみたい」と挑戦。「難しい」と口にするものの見本と同じものを作ろうと努力していた。また、「自分が買う立場だったら買うか」ということを意識して取り組むことができた。型ぬきした粘土をみて「んーこれは微妙」「あーまた線が入っちゃった」と自分でやり直しをしたり、あまりうまくいかないときは「先生、これどうしてもうまくいかないんですけど何でだと思いませんか」など自分からアドバイスを求める場面もあった。

平成25年 8月 カフェを開こう ※平成24年度も実施

昨年度同様に夏休み中に準備日を設けて先生方に事前に注文を取りに行ったり、会場準備を行ったりした。2, 3年生は昨年度の経験があるためとてもスムーズに注文を取ることができ、質問されたほとんどのことに対して自分の力で答えることができるようになった。今回は生徒会の行事で来校していた「チーム長町」の方々にも提供した。数が多かったため調理は主に教員が担当し、生徒は接客をメインに行った。会場の掲示物には自分たちの普段の様子が「写っている写真が貼りたい」などアイデアも出した。「昨年はこうだったね」など思い出しながら練習を行い、1年生に「次はこれだよ」と教える姿も見られた。

当日は自分たちが昼食を取ったのは14:00過ぎであったが、すべてのお客さんに提供し終わるまで休もうとする様子が見られなかった。

平成25年9月 物作り (スイーツデコマグネット・木製クリップ)

11月の「六郷復興のつどい」での出店に向けてラッピング等の仕上げの作業、これまでに経験したことを他の作業に応用することができるようになってきた。販売も近づいてきたのでできた製品の数やひとつの製品の値段などを気にして「全部売れたらいくらになるのかな」「パーベキューいくらあったらできるかな」などの発言があった。また、これまでは「次に何をすればいいですか」と自分の仕事が終わった際に教員に指示を求めることがあったが、「えーっと次はこれかな」「終わったから手伝おうか」「汚いので掃除していいですか」など自分で次にすることを判断して行動することができるようになった。



＜写真⑥＞平成25年度
スイーツデコマグネット



＜写真⑦＞木製クリップ

表6 <販売での収入を用いて行った活動の生徒の様子や発言について>

平成24年 7月23日 流しそうめん

事前に地域のお寺から竹をいただいてきて準備を行った。楽しみにしているようで、指示されたことには何とか取り組むが進んで準備をするというところまでは至らない。参加していただいた先生方や学級の仲間とともに楽しむことはできており、普段小食の生徒もいつもより食べる量が多かった。



＜写真⑧＞流しそうめん

平成24年 8月20日スイカ割り

学級の仲間と実施「カフェの打ち上げだ!」と張り切っている様子。基本的に教員が指示を出すのが、言われたことに対してはすぐ行動に移すことができた。学級の教員も一緒にジャンケンをして順番を決めて行った。目隠しをして進む仲間に対して「後一步」「おしかった」など声を掛ける場面もあった。教員が割る順番のときには、わざと逆の方向を言うなど冗談も交えながらの活動となり、たくさん笑い声が聞こえる活動となった。これまでスイカを苦手としていた生徒もいたが、自ら口にしていた。



＜写真⑨＞スイカ割り

平成24年10月17日やきいも

ひとりひとつ一斗缶など必要な道具を渡し、自分の力で焼き芋をつくるようにした。教員が行っている様子を見ながらそれぞれが挑戦。なかなか火がつかず全員が苦戦。それぞれの活動ではあるが、個人で行って見て、「風が来ないこっちの場所がいい」「小さい炭からつけた方がいいよ」など上手にできた方法を仲間に教え合っていた。教え合いながらであったため、焼き上がる時間はほぼ全員一緒であった。焼き上がったサツマイモを割っているときはどの生徒にも笑顔が見られ、お互いが焼いた芋を交換していた。



<写真⑩>畑でいもほり

平成24年12月20日 クリスマス会

お昼として提供するメニューの材料に、作業学習での販売の収入を用いた。招待状の作製など作業学習の要素も含んだ学習である。六郷中学校、東六郷小学校職員併せて計60枚の招待状作製など作業量も多く細かい作業がほとんどであったが野菜を買っていただいたお礼など、いつもお世話になっているお返しということで生徒全員が一生懸命取り組んだ。また、来ていただいた方に楽しんでもらえるよう生徒がグループを作り出し物の練習も行った。昨年度は人前で話すことが苦手であった生徒も出し物を披露することができた。



<写真⑪>クリスマス会の料理

平成25年 1月22日餅つき

3年生の受験が終了した後の行事。餅をつくだけではなく準備も授業の合間をぬい、交代で行った。教員が行っている作業を見て自分もやってみたいと一人の生徒が挑戦。その様子を見ていた他の生徒も一緒に作業を行い始めた。また、その場に来ていただいた先生方や東六郷小学校にも箸や餅を率先して配る生徒もいた。



<写真⑫>餅つき、餅をちぎる様子

平成25年 3月 7日3年生を送る会

クリスマス会と同様に、お昼のご飯の材料費に販売で得た収入を用いた。平成24年度の最後のお楽しみ会の行事であった。1, 2年生は3年生に内緒にしてこっそり準備を行った。話し合いの中では「3年生が喜ぶことって何かな」「お昼のメニューは3年生の好きな物を出そう」「3年生の好きな食べ物ってなんだっけ？」など相手を思いながら準備を進める様子が見られた。また、この会が近づくにつれて、「先生、お金はあとどのくらい残っていますか」「クリスマス会で結構使っちゃったからな」「この後使う予定はありますか」など予算を気にする発言があった。

平成25年 8月30日スイカ割り

平成25年度になってから初めて売り上げを用いて行った活動であった。1年生以外は昨年度も経験しており、2, 3年生が進んで順番を決めたり、必要な道具を教員に要求したりする様子が見られた。また、スイカ割りを経験したことがない1年生や東六郷小学校の支援学級の生徒に先に経験させようと順番を譲ってあげていた。

スイカ割り終了後はスイカの値段を気にかけて、「売り上げを少し使ったから次の販売で増やさなきゃ」「スイーツデコもっと作らなきゃ」など今後のお楽しみ会や作業学習に対する前向きな姿勢が見られた。



<写真⑬>スイカ割り

平成25年 9月11日流しそうめん

準備から意欲的に取り組んでいた。竹の節取りも、金づちとのみを使用し自分たちで行った。使用したことのない道具を用いての作業のため、はじめは教員が作業をしていたが何度か見ているうちに挑戦したくなったようで道具を手渡すとスムーズに作業をすることができていた。仕上げ作業のやすりがけの場面でも「そうめん、引っかからずに流れるかな」など現在行っている作業が何のための作業なのかを把握し、丁寧に取り組むことができた。

当日は、男子が竹を組み立て女子が食材の準備を行った。食材の準備は東六郷小学校、六郷小学校の分も用意したため竹を組み立てる班よりも時間がかかったが、自分たちの仕事が終わったあと食材の準備の手伝いに進んで向かった。

時間の都合もあり、自分たちが先に流しそうめんを楽しんだ。そうめん以外に白玉やゼリー、畑で取れたトマトなども流した。流れてくる意外な食材に大騒ぎしながら味わった。

小学生が参加した際は、生徒たちが食材を流した。「流れるよー」と声を掛けながら流していた。なかなか近くまで来ることができない児童がおり、小学校の先生が声をかけている場面があった。女子生徒がそれに気付き声を掛け行っていた。しばらく誘っていたのだがなかなか動かない。そこで女子生徒がゼリーを持っていくなど一緒に楽しもうとする様子が見られた。結局最後までその児童が参加することはなかったのだが、「頑張ったんだけどなー。だめだった。」とより多くの人と楽しみたいと思われる発言があった。



<写真⑭>流しそうめん

5 考察

(1)生徒の取り組みの変容

平成24年4、5月の時点では集中力も途切れがちで、なかなか前向きに作業に取り組むことができない様子であった。コースター配布や野菜の販売を始めた6月頃から少しずつ集中力が増してきた。7、8月にはカフェのオープンで人と関わる機会が増え、質問を自分からできるようになってきた。9、10月の物作りの作業学習では、4、5月に比べ集中して取り組める時間が増えている。作業学習中の私語も減り、「今日は〇個できたから、後〇個だ」など前向きな発言が出始めた。細かい作業も丁寧にやるようになるようになってきた。流しそうめん、スイカ割りを経験し、「販売した売り上げで楽しいことができる」ということを体験したことが影響していると考えられる。11月の初めての校外での販売では学校内での販売と違い、お金を得ることの難しさを実感していた。販売では売れ残ることもあると実感したようで、普段の作業ではより一層販売できるものを作ろうと、丁寧に集中して取り組もうとする様子が見られた。また、普段の生活では軍手や給食着などの洗濯をこれまで特定の生徒が行っていたが、その仕事を手伝う様子が見られるようになるなど率先して仕事をしようとするようになった。苦労して販売した売り上げで行ったクリスマス会では、豪華なメニューのランチを準備することができた。準備では未経験だったり、苦手だったりしたことにも積極的に挑戦することができるようになり、3年生を送る会の頃には、予算も気にするようになり金銭感覚が身に付いてきたようであった。また、1、2年生が「どうやったら3年生を喜ばすことができるか」などこれまで共に歩んできた仲間に喜んでもらうために協力しようとする姿勢が見られた。

平成25年度になり1年生1名が加わっての新学期スタートとなった。2、3年生は昨年度の経験を生かして、1年生の意見を聞きながら今年度の売り上げで行いたい活動を自分たちで決めた。バーベキューという新しい目標が増えたことにより、より一層販売活動を頑張らなくてはと前向きである。高等部の見学に参加した際には、高等部で行っていることを見て「あの活動やりたい」と中学校の作業学習で、行えないのか教員に相談してくることもあった。2、3年生は、昨年度の経験を1年生に伝えようと自分の仕事をこなしながらも1年生の仕事を一緒に行い、戸惑っている様子が見られれば自分の手を止めて助ける場面があった。畑作業でも、2、3年生は「虫に食べられたので薬が欲しいです」など自分から必要な物を教員に伝えたり、1年生に「支柱をしないと倒れちゃうよ。棒をして……」と指示を出したりと積極的に働くことができていた。

(2)まとめ

作業学習で作製した製品を販売し、その売り上げで仲間と楽しむということを何度も繰り返してきた。たくさんの努力をし、作り上げた製品や作物の販売で得られたお金を用いて活動を行うことによって金銭感覚が身に付き、自分たちが目標としてきた活動を行うために前向きに「働こう」とする意欲を高めることができた。さらに、「働いてお金を得ることで生活ができる」ということについての理解が深まった。支援学校高等部の学校見学会への積極的な参加や、「高校どうしよう」など普段の会話で進路を意識する様子が見られるようになるなど、なぜ高等部に進学するのか、高等部卒業後はどのような生活をするのかなど生徒一人一人が進路について考えるきっかけになった。また、仲間と共に楽しむ活動を取り入れたことで成就感や達成感を強く味わうことができたと考えられる。能力や、得手不得手、目指す進路もそれぞれではあるが、お互いの良さを認め、一人一人が全体の目標に向かって自分のできることを精いっぱい行おうとする姿勢が見られるようになった。そして、仲間が困っているときには自ら歩み寄り手伝う様子も見られた。お互い助け合いながら活動し、目標を達成できた際の生徒たちはとてもうれしそうにしていたのと同時に、「次は〇〇だね」と新たな目標へと意欲的であった。

販売活動のメインとなった地域の市民センター祭り「六郷復興のつどい」では、震災直後、避難所となっていた六郷中学校の武道館や体育館に暮らしていた方々との再会の機会でもあった。特別支援学級の畑は農地や家を失った地区の方々が暮らしていた武道館のすぐそばにある。作業学習の時間に畑作業をしていると、いつも温かく声を掛けていただき生徒と共に作業をしていただいた。手入れの仕方、育て方を詳しく教えていただいたり、時間割の都合で畑作業が滞ってしまうような際には「先生、間引きしておいたからね」などの畑の世話までしていただいたりすることもあった。仮設住宅ができてからは、関わる機会が無くなってしまっていたのだが、「六郷復興のつどい」に参加することで生徒が努力している姿を見ていただくことができた。

現在は地域での活動が年に1回と多いとは言えない回数である。今後は小学校のバザーへの参加なども検討し、より一層地域とのつながりを深めながら販売活動を行っていきたい。

〈引用文献〉

- 1) 新堀和子 「保護者の立場からの特別支援教育に対する期待」
特別支援教育研究 NO,660 2012・8 P22
- 2) 木内洋子 「いま知りたい特別支援教育 Q&A」
特別支援教育研究 NO,654 2012・2 P42

〈参考文献〉

- 1) 明石洋子 「意思がわかりづらい自閉症の我が子から教わった、生きること、働くこと」
東洋館出版社 特別支援教育 NO,46 2012・6
- 2) 渡邊和幸 「生徒の思いを大切にしながら進めるキャリア教育」
東洋館出版社 特別支援教育 NO,46 2012・6
- 3) 全国特別支援学校知的障害教育校長会 キャリアトレーニング編集委員会
「キャリアトレーニング事例集Ⅲ 接客サービス編」 株式会社ジアース教育新社 2010

※この論文の発表に際して、保護者の同意を得ています。